

平成18年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

- 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 -

今後の見通し(2006年5月～6月)

(1) 来遊量:

シラスは平年を下回る。

(2) 漁場:

紀伊水道東部(和歌山県側)では平年並みであった2005年並みか下回る。

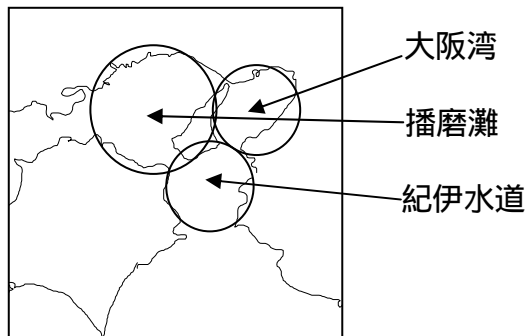
紀伊水道西部(徳島県側)では不漁であった2005年を上回るが、平年を下回る。

大阪湾では不漁であった2005年を上回り、平年並みか平年を下回る。

播磨灘東部(兵庫県側)では不漁であった2005年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘南西部(香川県側)では2005年、平年を下回る。

播磨灘北西部(岡山県側)では2005年、平年を下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当:青木、笠原、田中(博)、佐藤

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

電話:03-3502-8111(内線7375、7376)、直通電話:03-3501-5098、ファックス:03-3592-0759

電子メール:yuusuke_satoh@nm.maff.go.jp

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

〒739-0452 広島県廿日市市丸石2-17-5

電話:0829-55-3406、ファックス:0829-54-1216、電子メール:feis-kiren@ml.affrc.go.jp

なお、本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査推進委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び瀬戸内海区水産研究所のホームページ(<http://www.nmf.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場 大阪府立水産試験場 兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター 岡山県水産試験場	香川県水産試験場 徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究所 水産庁 増殖推進部 漁場資源課 独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所 瀬戸内海区水産研究所
--	--

平成18年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し(2006年5～6月)

シラス(本年春季発生群)

紀伊水道東部(和歌山県側)では平年並みであった2005年並みか下回る。

紀伊水道西部(徳島県側)では不漁であった2005年を上回るが、平年を下回る。

大阪湾では不漁であった2005年を上回り、平年並みか平年を下回る。

播磨灘東部(兵庫県側)では不漁であった2005年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘南西部(香川県側)では2005年、平年を下回る。

播磨灘北西部(岡山県側)では2005年、平年を下回る。

特に断りがない場合、代表漁協におけるシラス漁獲量を各海域のシラス漁獲量の指標とし(図1～3)、1985～2004年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過(2005年4月～2006年4月)および見通しについての説明

(1)シラス漁況

紀伊水道東部(和歌山県側)では2005年の漁獲量は前年の38%、平年の45%であり、前年、平年を下回った。2005年4月の漁は4月14日から遅く、漁獲量は前年、平年を大きく下回った。5月は平年並みであったが、6月から減少し、7～10月は前年、平年を大きく下回った。11月は前年を上回ったものの平年を下回り、12月は前年、平年を上回った。2006年の漁は3月24日から始まり、不漁であった2005年を上回っているが、平年を下回っている。

紀伊水道西部(徳島県側)では2005年の漁獲量は前年の70%、平年の34%であり、1985年以降で最も不漁となった。4～6月の漁獲量は前年、平年を下回った。7～12月では7、11～12月で前年を上回った以外は前年、平年を下回った。2006年の漁は4月17日から始まり、不漁であった2005年を上回っているが、平年をやや下回っている。

紀伊水道北部(兵庫県側)では2005年の漁獲量は前年の39%、平年の20%であり、前年、平年を下回った。2005年の漁は4月12日から始まり、漁獲量は7月まで低調に推移した後、8～9月は漁獲がなくなり、10～12月は平年を下回った。2006年はイカナゴシンコ漁が続いており、シラス漁は始まっていない。

大阪湾では2005年の漁獲量は前年、平年を下回った(大阪府側では前年の53%、平年の63%、兵庫県側では前年の42%、平年の47%)。2005年の漁は4月25日から始まり、漁獲量は5月まで前年、平年を大きく下回った。6月にはまとまった漁獲があったものの、8月にかけて減少し、9月には漁獲がなくなった。その後、10月後半から再び漁獲がみられ始め、11～12月にかけて平年を上回る漁獲があった。

播磨灘東部(兵庫県側)では2005年の漁獲量は前年の58%、平年の27%であり、前年、平年を下回った。2005年の漁は6月4日から始まり、漁獲量は7月まで前年を上回ったが、平年を大きく下回った。8月には減少し、9～10月には漁獲がほとんどなくなった。11～12月も平年を下回った。

播磨灘南西部(香川県側)では2005年の漁獲量は前年の295%、平年の90%であった。2005年の漁は6月1日から始まった。6月の漁獲量は低調であった前年を上回ったが、平年(1989～2004年の平均値)を下回った。7月は平年並みで、8月以降、漁期終了の12月まで極めて低調に推移した。

播磨灘北西部(岡山県側)では2005年の漁獲量は不漁であった前年の317%であったが、平年(2000～2005年の平均値)の87%であった。2005年の漁は5月18日から始まった。5月の漁獲量は前年を大きく下回ったものの、6月は大きく上回った。7月上旬に減少し、中旬以降漁獲されなかった。

(2) 外海域での産卵量等

中央水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況では、薩南～紀伊水道外域における2006年1～3月の産卵量は前年の10%と小規模であった。2005年では2月に47兆粒、3月に435兆粒、4月に310兆粒、5月に248兆粒、6月に124兆粒であったが、2006年では2月に3.8兆粒、3月に44兆粒であった。1～3月の産卵量は1999～2000年に一度高水準(>400兆粒)となったが、2001～2002年に落ち込み(<60兆粒)、その後2003～2005年に再び高水準となった。2006年1～3月の産卵量は2001～2002年同様に低水準で、前年、平年(1996～2005年の平均値、374兆粒)を大きく下回ると考えられる。

和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場が行った2006年2～3月の紀伊水道外域東部における定線調査では、カタクチイワシの卵、稚仔ともに採集されなかった。4月は現在、分析中であるが多くない。

徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所が行った2006年3月の紀伊水道外域西部における定線調査では、カタクチイワシの卵密度は前年の1%、平年の4%と低水準であった。しかし、稚仔密度は前年の125%、平年の115%であった。

(3) 今後の見通しの説明

シラス(本年春季発生群)

4月25日現在、黒潮は室戸岬沖～潮岬沖でやや離岸している。今後も、黒潮のやや離岸傾向は継続すると予測されるので紀伊水道への強い暖水波及は期待できない。

紀伊水道の春季シラス漁は紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に依存する。外域での3月の卵密度は低かった。また、紀伊水道への強い暖水波及は期待できず、来遊環境はあまり良くないと考えられるので、紀伊水道での漁獲は低調に推移すると予想される。

大阪湾の春季シラス漁は紀伊水道および外域でのシラス現存量と来遊環境に依存する。紀伊水道外域では3月まで卵密度は低く、4月20日現在、紀伊水道内の和歌山県側でのシラス漁獲量は前年を上回るものの平年を下回る模様である。3月下旬から4月上旬には大阪湾内への外海系水の流入が認められたことから、春季シラス資源はすでに大阪湾内の漁場にある程度来遊していると推測される。しかし現在、潮岬沖の黒潮はやや離岸しており、5月まで離岸が継続すると予測されることから、今後の来遊環境は良くないと考えられる。以上のことから、漁期当初はある程度の漁獲が見込めるがその後低調に推移すると考えられる。

播磨灘東部(兵庫県側)および南西部(香川県側)の春季シラス漁も紀伊水道および外域でのシラス現存量と来遊環境に依存する。大阪湾と同様に漁獲は低調に推移すると考えられる。

播磨灘北西部(岡山県側)では過去の漁獲状況から前年を下回ると予想される。

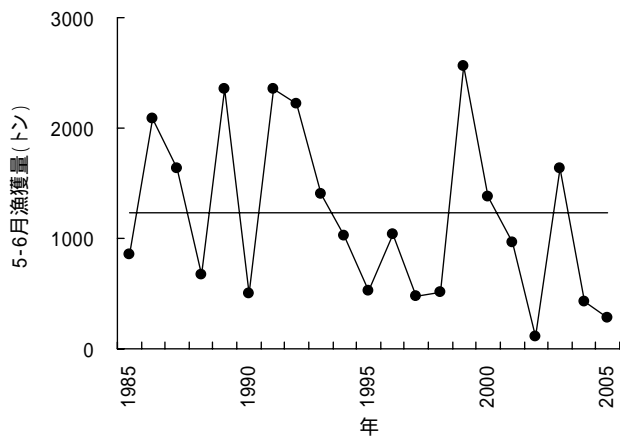
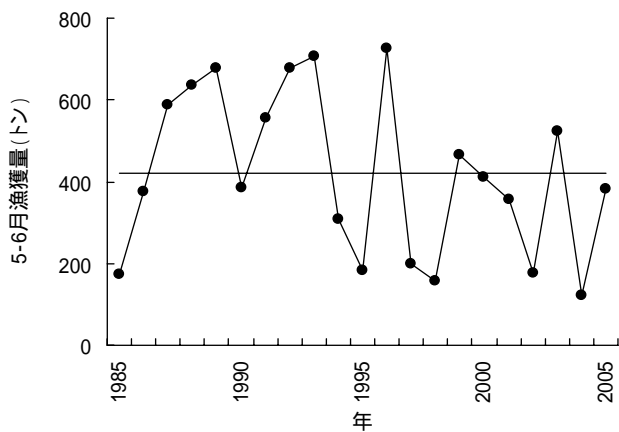


図1 紀伊水道東部(和歌山県側:左図)および紀伊水道西部(徳島県側:右図)の標本漁協におけるシラス漁獲量(実線は平年値を示す)

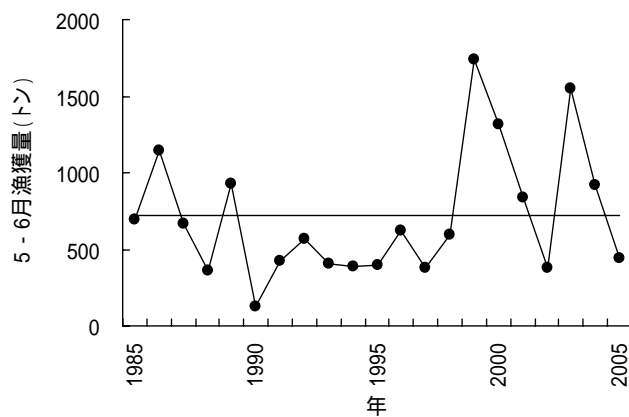
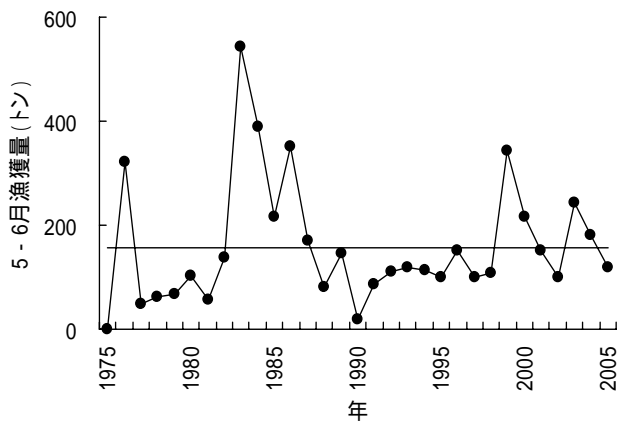


図2 大阪湾東部(大阪府側:左図)および大阪湾西部(兵庫県側:右図)の標本漁協におけるシラス漁獲量(実線は平年値を示す)

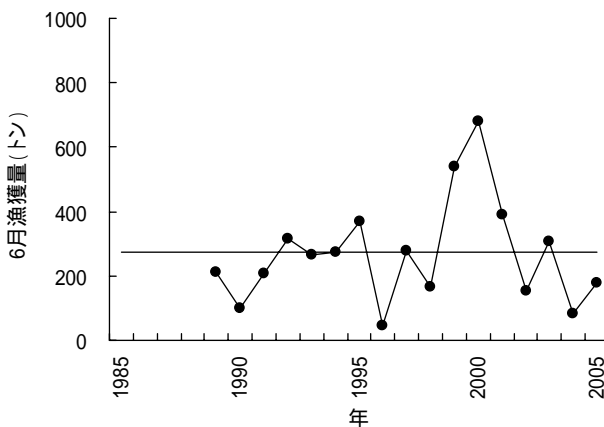
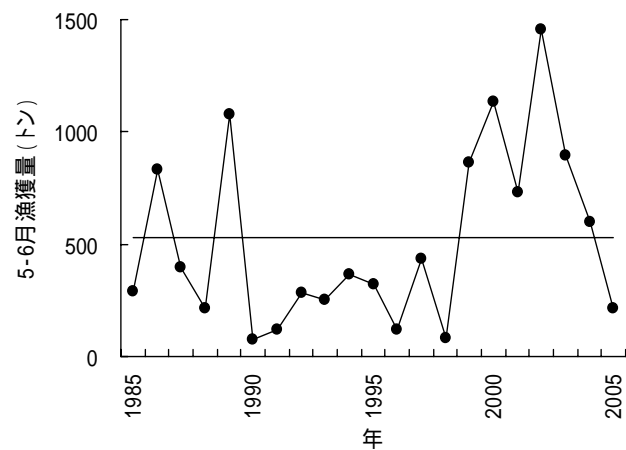


図3 播磨灘東部(兵庫県側:左図)および播磨灘南西部(香川県側:右図)の標本漁協におけるシラス漁獲量(実線は平年値を示す)